



ほけんだより



令和8年5月
キッドワールドこども園
園長：高津 宏児
看護師：飯倉 ゆみ

5月号

鮮やかな緑とスツキリとした風が初夏を感じる季節となりました。

新年度がスタートして約1か月が経ち、新しい生活で緊張気味だった子どもたちも、今ではすっかりこども園の生活を楽しんでいるみたいです。

日差しも暖かくなり、外遊びが楽しい時期です。汗をかき、着替えをする機会が多くなってきます。着替えの服は多めにご用意をお願いします。

季節の変化を感じる中、体調を壊さないよう規則正しい生活が出来るように過ごしていきましょう。



小児健診は受けていますか？



健診の目的…乳幼児の発育や栄養状態の確認、疾病の早期発見、養育状態の確認、事故や疾病の予防、性格習慣の確認、保護者の心配事や悩みへの対応です。

●健診時には、身体計測・医師による診察があります。

1か月児健診(大分市では、母子手帳に綴じられている乳児健康診査の受診票を使用し、指定の医療機関で「健診」として受ければ、通常無料で受けられることが多い。念のため受診施設に確認が必要。)

授乳量や睡眠量、健康状態の確認、身体計測や原始反射の確認をします。

3～4か月児健診(無料の受診票が大分市から送付)

首の座り具合など身体機能の発達状況が順調か、先天性の異常がないかを確認します。

7～8か月児健診(無料の受診票が大分市から送付)

寝返りやお座りなど身体機能の発達状況や、先天性の異常がないか確認します。

9～11か月児健診(無料の受診票が大分市から送付)

ハイハイやつかまり立ちなど発達の状況を確認し、喃語、歯が生えているかなどチェックします。

1歳6か月児健診(無料の受診票が大分市から送付)

※母子保健法により、市町村は、健診を実施しなければならないと義務付けられています。

子どもの成長、栄養状態、先天性の病気の有無などを確認すると共に、栄養指導や保護者へのサポートを行う大切な健診です。先天性疾患や斜視・聴覚異常、心音異常、皮膚の異常などの有無を確かめる重要な機会でもあります。

3歳児健診(無料の受診票が大分市から送付)

※母子保健法により、市町村は、健診を実施しなければならないと義務付けられています。

小学校に入学する前の最後の乳幼児健康診査に位置付けられています。子どもの身体的な発育や心理的な発達状況を把握し障害や疾病を早期発見することを目的としています。

(任意)5歳児健診:5歳の誕生日を迎えた子が対象(自治体によっては有料の場合もあるので、確認が必要。)

集団健診と個別健診がある。(実施内容は、自治体や担当する医師によって若干の違いがある。)

問診、身体計測、内科診察に視力検査(視力は学習にとって重要な情報源)が加わることもあります。

(目的)5歳児健診は、子どもの情緒・社会性の発達状況や育児環境などに対する気づきの場としての役割。

多職種による関わりで、子ども・家族の状態に応じた支援を開始し、就学に向けて必要な準備を進めていくことを目指す。

予防接種について

予防接種（定期） ～定期予防接種が 必要である意味～

感染症にかかると、原因となる病原体に対する「免疫」ができ、その感染症に再びかかりにくくなったり、かかっても症状が軽くなったりするようになります。予防接種とは、このような体の仕組みを使って病気に対する免疫をつけたり、免疫を強くしたりするために、ワクチンを接種することをいいます。

＜生後2か月から接種＞

- 📌 B型肝炎 : 肝臓の細胞が壊れ、その影響で肝臓の働きが悪くなる病気です。感染後は急性肝炎または慢性肝炎になります。
- 📌 小児用肺炎球菌 : 主に気道の分泌物により感染を起こし、症状がないまま菌を保有して日常生活を送っている子ども達も多くなります。しかし、これらの菌が何らかのきっかけで進展すると、肺炎や、中耳炎、敗血症、髄膜炎、あるいは血液中に菌が侵入するなどして重篤な状態になることがあります。
- 📌 ロタウイルス : 主に生後3～24か月、特に7～15か月の乳児に起こります。突然の嘔吐に続き、白っぽい水のような下痢を起こします。脱水が強い場合には入院が必要になることもあります。
- 📌 5種混合(ジフテリア) : 主に気道の分泌によってうつり、喉などに感染して毒素を放出します。この毒素が心臓の筋肉や神経に作用することで、眼球や横隔膜などの麻痺、心不全などを来し、重篤あるいは亡くなる場合があります。
 - (百日咳) : 名前の通り、激しい咳を伴う病気で、1歳以下特に生後6か月以下の乳児は亡くなってしまうこともあります。
 - (破傷風) : 主に傷口に菌が入り込んで感染を起こし、様々な神経に作用します。口が開きにくい、顎が疲れるといった症状に始まり、歩行や排泄障害などを経て、最後には全身の筋肉が硬くなり、息が出来なく死に至ることもあります。(下の欄に詳しく説明あり)
 - (ポリオ) : またの名を脊髄性小児麻痺とも呼ばれ、子どもがかかることが多く麻痺などを残すことのある病気です。主に感染した人の便を介してうつります。
 - (ヒブ) : ヒブ感染症が重症化すると侵襲性の感染症を起こすことがあり、通常菌のいない部位から細菌が見つかることで判断します。ヒブの感染による重篤な疾患として、肺炎、髄膜炎、化膿性の関節炎などが挙げられます。(下の欄に詳しく説明あり)



＜生後5か月から接種＞

- 📌 BCG : 結核の予防注射です。結核菌は肺で増え、炎症反応を引き起こし、やがて肺の組織が破壊されてきます。初期は風邪の症状に似ていますが、進行すると血痰が出て呼吸困難を引き起こし、死に至ることもあります。



破傷風菌は、どこにいるの？

5種混合

世界中の土などの環境に存在します。庭いじりで怪我をした、野球をしていてスパイクで蹴られた、古釘をふんだといった、このような小さな傷が破傷風を引き起こす可能性があります。

ヒブ感染症は、どんな菌？

5種混合

ヒブは、鼻やのどについたり消えたりを繰り返している常在菌の一種であり、多くの場合ヒブに対する免疫は5歳ごろまでに自然に獲得されます。そのためこの感染症は、免疫のない生後3か月から2歳ごろまでに多く感染します。